

平成30年度 学校経営の具体的な取組

岡山県立総社南高等学校

【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。 (●は取組評価)

学校経営 目標	担当	具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価
1 学力の向上と進路の実現	(1)主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に教科として組織的に取り組み、新しい大学入試制度を見据えた学力の向上を図る。	教務課	○第1学年の総合的な学習を探究的な要素を増やしたものと再編し、学年全体で取り組むことができる。 ○調査書や報告書に活用できるように有効なポートフォリオを作成する体制を確立する。	●	●	●	●
	進路課	○各学年の進路課が学力向上に向けて具体的な取り組みを提案し、学年団教員、各教科と連携しながら実施する。 ○成績の上位層、中位層、下位層の3層に分けて、それぞれに合った指導を行う。 ○新しい大学入試制度を研究し、学校全体で情報の共有に努める。	○校外模擬試験において、1・2年生の全体偏差値48以上の人数が、昨年より増加している。 ○3年では国公立大合格数が69名(25%)以上となっている。 ○進路課アンケートにおいて、85%以上の教員が「新しい大学入試制度の情報を得た。」と回答する。				
	国語	○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の手法を検討する。 ○授業で「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を実践しながら、手法を改善し、指導力を高めていく。	●グループワークなどを通して、伝え合う力や考え合う力を伸ばし、深く思考する力を養う取組を行う。 ○授業アンケートにおいて、60%以上の生徒が「伝え合う力、考え合う力、深く思考する力を伸ばせた。」と回答する。				
	地歴公民	○「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた実践を恒常的にを行い、教科内で組織的に学力向上に効果的な手法を研究する。	●グループワークや学びあいなど講義形式以外の手法を授業に取り入れ、IT機器を効果的に活用する。 ●教科研修会等により、生徒の学力向上にとって効果的な方法の開発を目指す。				
	数学	○常に生徒自らが学び合いの姿勢で学習できるようにICT機器の利用やグループ学習を取り入れた授業づくりに取り組む。	●主に学年内で指導の研修・研究を行い、効果的な教材や指導法を取り入れた授業が実施できるようになる。				
	理科	○生徒自らが自分の言葉で発見や学びについて表現できるように、効果的にICT機器を利用したりグループワークを取り入れたりした授業づくりに取り組む。	●実験や観察によって生徒自身の気づきや興味を引き出し、その発見を深い学びにつなげられるような授業を実践する。 ○授業アンケートにおいて、70%以上の生徒が、「新しい発見や気づきがあり、『なるほど』と思った。」と回答する。				
	国際系・英語	○4技能をバランスよく伸ばすことができるような授業を検討し、国際系教員同士が連携して授業改善に取り組む。	●新しい大学入試制度を見据え、学力の向上を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に教科として組織的に取り組む。				
	芸術	○作品制作前に構想を練ったり、作品完成後に自分の作品を総括したりする際に、言語化、文章化して発表やコミュニケーションをとる機会を設けることで、自身の表現活動にフィードバックさせる。	○芸術科各科目の授業において、言語活動を取り入れた学習活動を3つ以上の単元において実施する。				
	保健体育	○「深い学び」とは自らで大会や記録会などを企画運営する能力であるため、各学年に応じて企画、実施をさせる。 ○授業アンケートで評価をする。	○70%の生徒が大会や発表会へ向けて、目標を明確にして取り組めた。 ○50%の生徒が企画運営へ関わる。 ○80%の生徒が実施後の充実感を実感できる。				

平成30年度 学校経営の具体的な取組

岡山県立総社南高等学校

【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。 (●は取組評価)

	家庭	○ペアワーク、グループワーク、ICT機器の活用、実習等により、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善に取り組む。	●生徒自身が日々の生活を見直し、生活の充実向上を目指す。 ○授業アンケートで、80%の生徒が「生活の質が向上した。」と回答する。					
(2)進路実現に向けて生徒・保護者の意識を高めるとともに、教員も進路指導力を高めていく。	進路課	○進路通信を定期的に発行し、生徒の進路意識を高めるとともに、保護者にも渡すよう指導する。 ○学年会議や進路検討会議など様々な場面で進路に関する情報を発信し、教員個々の進路指導力を高めるために各種の研修会を行う。 ○ホームページ内の進路に関するページに、進路行事などの進路情報をアップし、生徒や保護者に情報を提供する。	○学校自己評価アンケートにおいて、85%以上の生徒・保護者が「進路の意識を高めている。」と回答する。 ○進路課アンケートにおいて、90%以上の教員が「進路指導力が高まった。」と回答する。					
	人文系	○7月、12月に有識者による講演会、9月に県外での校外研修を実施する。	○人文系アンケートにおいて、80%以上の生徒が「進路意識の向上につながった。」と回答する。					
	理数系	○1、2学期に有識者による講演会や岡山県立大学での授業体験等の校内外行事を企画実施するとともに、外部団体による各種の催しの情報を発信し、生徒が自身の数理的な能力を伸長させ、進路意識を高めるような機会を設ける。	○講演会・校外行事への参加後のアンケートにおいて、80%程度の生徒が「進路意識の向上につながった。」と回答し、感想などが充実した内容で記入されている。					
	美工系	○大学や内容、領域等が偏らないようにバランスを考え、生徒が美術に関する興味や技術を高められるような企画立案をする。(大学生の授業見学、作品講評会、実技講習会等を計画予定。)	○美術系大学との教育交流を年間3回以上実施する。					
	1年	○家庭学習の習慣が定着するように、授業を中心とした予習・授業・復習の取り組み状況を年間を通して日常的に点検する。 ○週末や長期休業中に適切な課題を与え、思考力、応用力を養うために基礎学力の定着を図る。	○半数程度の生徒が1日の平均150分以上の学習時間を確保している。 ○外部模試において、3教科の平均偏差値が1学期から3学期までで同等である。					
	2年	○授業に積極的に参加させる。 ○授業での指導や「学年通信」「進路通信」を通して、課題や予習復習の重要性を理解させ、主体的な家庭学習を定着させる。 ○「総合的な学習の時間」や年間5回の個別面談を効果的に活用して、生徒の学習意欲を喚起し、志望校合格のため必要な学力を身に付けさせる。	●チャイムと同時に授業を始められるようにさせる。 ○1日平均学習時間が、学年全体として150分を下回らないようにする。 ○3教科の全国偏差値54以上の生徒を70人以上に増やし、40以下の生徒を28人以下にする。					
	3年	○1日4時間、部活動引退後は5時間の学習時間を確保できるように指導する。 ○早期に志望学部・志望校を明確にさせる。 ○簡単にあきらめることなく、目標に向かって最後まで努力を続けさせる。	○部活動引退後5時間以上の学習時間が25%(約70名)以上。 ○9月の進路志望調査で明確にできていない生徒が0人とする。 ○国公立現役合格者数69名(25%)。岡山大学以上合格者数10名以上。					

平成30年度 学校経営の具体的な取組

岡山県立総社南高等学校

【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。 (●は取組評価)

2 豊かな人間性の育成	(1)ルールを守り、自他を尊重し、活力ある学校生活を送ることができる生徒を育てる。	生徒課	○各学期1回(6/4~8、10/1~5、2/4~8)、挨拶運動週間を設定する。各週間前には、P C掲示板や終礼で周知徹底を図る。 ○全教員と風紀委員が率先して挨拶運動を行う。	○学校自己評価アンケートにおいて、80%以上の生徒が「さわやかな挨拶ができている。」と回答し、活気がある。				
		1年	○生徒との面談を大切に、保護者、教員同士が連携を図ることで、生徒が互いの差異や特徴を認め合う人間関係の構築を促進する。 ○あいさつを励行し、機を逃さず身だしなみ指導・清掃指導をすることにより、ルールやマナーに対する意識、公共心を高める。	●障害や病気のある生徒を含め、80%の生徒が学校生活に適應している。 ●教室のロッカーや机上にものが散乱せず、80%の生徒が清掃に自主的に取り組んでいる。 ●学校自己評価アンケートで80%の生徒と教員が肯定的な回答をする。				
		2年	○制服・頭髪・携帯電話のルールや交通ルール・マナーに対する指導を、学年全体で共通認識を持ちながら、タイミングを逃さず行う。	●挨拶や学校生活・交通のマナー向上を励行し、生徒一人一人の社会性を育む。 ○学校自己評価アンケートで80%の生徒が肯定的な回答をする。				
		3年	○ルールを守り、自他を尊重する。 ○学年集会で呼びかけたり、学年通信で伝えたりして、部活動や学校行事の課外活動に意欲的に参加させる。 ○さわやかなあいさつができるようにする。	○生徒(特別)指導件数を3件以内とする。 ●特に、南翔祭期間、日々クラスの生徒にしっかり声掛けを行う。 ○学校自己評価アンケートで85%以上の生徒が肯定的な回答をする。				
	(2)生徒会活動・学校行事・社会貢献活動等に積極的に取り組み、自己有用感を持つ生徒を育てる。	生徒課	○各行事までに、生徒会や各種委員会において準備を進める。生徒の主体性を重視し、計画や運営等を支援する。 ○南翔祭においては、教員が準備や行事当日に活動場所に足を運び生徒と関わるよう朝礼やPC 掲示板で教員に促す。	●南翔祭等の各行事において、クラスやチームで協力や団結する姿が見られる。 ○生徒課アンケートにおいて、生徒の満足度が80%以上とする。				
		図書課	○「図書委員会だより」発行やカウンター当番など、図書館業務に関わることで、生徒の自己有用感を育む。	○図書委員会委員が新しい企画を含めた「図書委員会だより」を年間10回発行する。				
		社会貢献活動	○2年間で全員が1日以上インターンシップ(小中幼保での学習支援)に参加できるよう支援する。	○2年生終了時点で、全員が1日以上インターンシップに参加する。 ○社会貢献活動を通じて、80%以上の生徒が充実感を持つ。				
		国際系	○外部主催行事の情報を各学年で精査して、広く生徒に公開するとともに、積極的な参加を呼びかける。 ○一人ひとりの生徒にあった行事への参加を促し、行事がより充実したものになるよう、国際系スタッフ全体で分担し指導にあたる。	○「エッセイコンテスト」等の外部主催行事への積極的な参加を促し、参加した生徒が事後の調査において「充実感・達成感を得、学習意欲・英語力が向上した。」と回答する。				
		美工系	○各種コンクールを通して、挑戦心や自己開拓心を育成するために、授業や部活動においてきめ細かい指導を行い、生徒作品のレベルの向上を図る。今年度は特にデッサン指導に重点をおく。	○各種コンクールにおいて、延べ65人が入賞する。				

平成30年度 学校経営の具体的な取組

岡山県立総社南高等学校

【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。 (●は取組評価)

3 教育体制の整備	(1)各分掌内の協力体制を充実させ、さらに分掌間の連携を密にすることで、学校全体としての組織力を更に高める。	運営指導部	○生徒とふれあう時間確保・風通しの良い職場・勤務負担軽減に向けての提案を募集し、新たな取り組みを導入する。	○生徒とふれあう時間確保・風通しの良い職場・勤務負担軽減に関する新たな取り組みを2つ以上導入する。					
		教務課	○行事は一月前を目途に早めに起案を行い、起案の前に課長を中心に関係分掌と打合せを行い、連携を密にする。 ○「業務スケジュール」を課長が作成し、この一年間を通じて各係が点検・修正して、課内で共有できるようにする。	●教務課内の業務スケジュールを作成し、見直しを持って業務に当たることができる。 ○各係内での複数チェックを徹底することで、報告文書の遅延や通知表の誤記載、行事の実施に不都合が出るなどの重大なミス無くし、課外に影響を与えるミスもほぼ無くす。					
		進路課	○各学年会議において、進路課から資料を示し、連携を意識しながら計画的に業務を進める。 ○課会議において各学年の業務を相互に確認し、協力体制をとる。 ○校外模試の分析資料や進路通信などの進路課の作成物は進路課全員が作成できるようにする。	○進路課アンケートにおいて、80%以上の教員が「協力体制が高まり、組織力が向上した。」と回答する。					
		国際系	○姉妹校と留学事業についての共通理解を図り、来年度の短期・長期留学に向けて日程や規模、受け入れ態勢などを決めていく。 ○マリアツビル高校の1名枠以外の長期留学派遣について、一般業者を挟んだり、有料のホームステイを検討するなど新しい形を模索する。	○姉妹校との連絡を密に取り、今後の短期・長期の交換留学の在り方について検討し、本校生徒に国際交流をするための十分な機会を提供できる交換留学の方向性を定める。					
	(2)学校生活を安全・安心・快適に送ることができるように、教育環境の整備を推進する。	厚生課	○生徒が清掃活動に積極的に取り組み、校内の美化が保たれている。 ○生徒清掃が行えないような箇所(階段上方の窓など)の業者清掃も取り入れる。 ○エコ花の収益金を活用する。	○学校自己評価アンケートで、85%以上の生徒が「清掃への取り組み具合がほぼ良好である。」と回答する。 ●エコ花収益金を活用して、業者清掃が行われる。					
			○緊急時の対応に備えて、事前に資料を配付するなどして生徒の防災意識を高め、実践的な防災避難訓練を計画・実施する。	●生徒が避難訓練に真剣に取り組んでいる。 ○厚生課アンケートにより、60%以上の生徒が「真剣に取り組むことができた。」と回答する。					
		図書課	○「放送ガイド」「視聴覚教室マニュアル」を用いて、機器等の運用を行う。	●「放送ガイド」「視聴覚教室マニュアル」を用いて、教員が機器等の運用が確実にできる。 ○使用方法等を校内の他の分掌や学年への伝達講習を3回以上行う。					

平成30年度 学校経営の具体的な取組

岡山県立総社南高等学校

【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。 (●は取組評価)

4 広報活動の推進	(1)本校の特色や授業内容を紹介しながら、総社南の教育内容を中学校・保護者に積極的に発信する。	総務課	年間を通じて、HP・ブログの更新を積極的に行い、 ○10月までにオープンスクール、学校見学会、中学生保護者対象学校説明会を開催する。 ○総社地区中学校、中学校訪問、学習塾訪問を実施する。 ○学校案内、チラシ、ポスター、MINAMINEWSを発行する。	本校の様子を様々な取組によって積極的に発信することによって、多様なつながりを構築し、 ○志望調査において定員の1.1倍以上を目指す。 ○サーバーリクエスト件数を平均100,000以上/月を目指す。 ○総社地区生徒数の割合30%以上を目指す。					
	(2)様々な機会を通して、「チーム総社南」としての本校の活動を計画的に発信し、総社南ブランドを定着させる。	人文系	○有識者による講演会、県外での校外研修などの人文系の取組をホームページ・ブログ、MINAMINEWS、「人文系新聞」で発信する。	○人文系の行事や活動の様子を、年6回以上ホームページやブログ等で発信する。					
		国際系	○外部への出前授業や、オープンスクールに留学生を活用する。 ○国際系の行事を随時ブログにアップする。 ○国際系の固定ページのうち現状に合わない記述を刷新したり、削除したりし、現在行なわれている活動に関する内容を新たに追加する。	●留学生を活用した新たな取り組みや広報活動を行なう。 ●校内での国際系の行事以外に、地域や周辺校と連携した取り組みを促進し、その様子をホームページを通じて発信する。 ●ホームページの国際系の固定ページの内容を検討し、より魅力的な最新のものに更新する。					
		理数系	○理数系の各行事の活動状況を記録するとともに、理数科目に関する興味関心を高めるために、「理数の窓」を発行する。	○各行事や日頃の活動の様子などを、行事後1週間以内にブログやHPで発信する。 ○「理数の窓」をHPに掲載する。					
		美工系	○ブログ記事により美工系の活動や成績をきめ細かく発信し、広く中学生や保護者、地域にPRする。 ○美工系作品展(12月)の開催を広く周知するために、ブログ記事、中学校・報道機関への案内送付等の広報活動に力を入れる。	○美工系に関するブログ記事の更新を、年間30回以上行う。 ○美工系作品展(12月)で作品を400点以上展示し、500人以上の集客を目標とする。					